**成人援助論Ⅰ（循環機能障害の看護）シラバス（全10回）**

**■目的**

循環器疾患は生命に直結する重大な病態であり、急性期から慢性期、さらには退院後の日常生活に至るまで、継続的かつ包括的な看護が求められる。本講義では、循環器疾患の病態生理、検査・治療、看護実践に関する知識を体系的に学び、臨床現場で必要な観察力・判断力・援助技術を養うことを目的とする。

■**講義全体の目標**

1. 循環器系の解剖生理と循環機能障害の基本的な病態を理解する。
2. 虚血性心疾患、心不全、不整脈、心臓弁膜症、大血管疾患などの代表的な循環器疾患について、診断・治療方法を説明できる。
3. 各疾患の症状や経過に応じた看護援助の実際を理解し、安全かつ適切な援助が考察できる。
4. 心臓手術を受ける患者に対する周術期の看護援助と術後合併症予防について理解する。
5. 循環器疾患を持つ患者の生活支援・セルフマネジメント支援について考察できる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **回** | **講義テーマ** | **内容概要** |
| 第1回 | 循環器系の構造と機能／循環器疾患の概要 | 心臓と血管の解剖生理、心拍出量の調整メカニズム、心電図の基本波形。循環器疾患（虚血性心疾患、心不全、不整脈、心臓弁膜症、大血管疾患など）の特徴と発症メカニズムを概観する。 |
| 第2回 | 虚血性心疾患の病態と治療 | 狭心症・急性心筋梗塞の病態生理、リスク因子、症状（胸痛、呼吸困難、冷汗など）、診断に用いる検査（心電図、心エコー、血液検査、冠動脈造影など）、治療（PCI、薬物療法、生活指導）を解説する。 |
| 第3回 | 虚血性心疾患患者の看護 | 急性期・回復期における看護援助（安静度の調整、バイタルサインと心電図の観察、疼痛緩和、不安への対応）、再発予防の指導内容、心リハビリテーションの概要を含む。 |
| 第4回 | 心不全の病態と治療 | 心不全の分類（左心不全・右心不全・全身性心不全）、NYHA分類、慢性心不全と急性増悪の違い、症状と検査所見、治療（利尿薬・ACE阻害薬・β遮断薬・CRTなど）、心不全の進行と予後について解説する。 |
| 第5回 | 心不全患者の看護 | 呼吸困難、浮腫、倦怠感などの症状に対する看護。体液管理、体位調整、安静度の調整。患者のセルフケア支援、食事や内服管理、再入院予防のための退院指導の要点について扱う。 |
| 第6回 | 不整脈の種類と治療 | 徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）、頻脈性不整脈（心房細動、心室頻拍など）の分類とメカニズム。心電図所見、治療（抗不整脈薬、カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICDなど）を含む。 |
| 第7回 | 不整脈患者の看護 | 心電図モニターの読み方と管理、バイタルサインの変化に応じた対応、失神・意識消失時の初期対応、治療前後の観察ポイント、術後の合併症予防、日常生活での注意点などを取り上げる。 |
| 第8回 | 心臓手術①：弁置換術の理解と看護 | 僧帽弁・大動脈弁の狭窄・閉鎖不全の病態、人工弁（機械弁・生体弁）の選択、開心術の流れ（人工心肺使用含む）、術前準備と術後の管理（ドレーン管理、感染予防、出血管理、抗凝固療法の必要性）を含めた看護の実際。 |
| 第9回 | 心臓手術②：大血管再建術と看護 | 大動脈瘤（上行・下行・腹部）の病態、Stanford分類、手術の適応と方法（人工血管置換術など）、術前後の観察ポイント（血圧・神経障害・腎機能など）、緊急手術時の対応や合併症への看護援助。 |
| 第10回 | 循環器疾患患者の生活支援と退院支援 | 食事・運動・薬物療法の継続支援、自己管理支援、再発予防のポイント（禁煙・減塩・定期受診など）、家族への支援、在宅医療や訪問看護との連携、心疾患を持つ患者の社会生活上の課題に対応する視点。 |